



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

武蔵野赤十字病院

No. 77

2023年 春

〒180-8610
東京都武蔵野市境南町1-26-1
TEL 0422-32-3111

季刊 情報誌

Eye むさしの

頼れる病院をめざします



2023年4月3日 入社式の様子

基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります



放射線科 新任部長のご挨拶

放射線治療ってどんな治療？



放射線科部長
戸田一真

2023年4月より放射線科部長ならび高精度放射線治療センター長に就任いたしました戸田一真と申します。新任のご挨拶に代えて、自分の専門である放射線治療について簡単に紹介いたします。

放射線治療は手術や抗がん剤とならぶがんの三大治療のひとつです。体への負担を抑えてがんを治療できることが特徴で、合併症がある方やご高齢の方でも治療の範囲や量を調整して安全に治療が行えます。じっさい、多くの患者さんが仕事や家事を続けながら通院で放射線治療を受けています。

外照射と呼ばれる一般的な放射線治療では、ライナックという大型の装置を使って体の外から放射線(X線)を照射します。照射が始まる前にまずCTを撮り、専用のコンピュータで患者さんごとに適した照射法を検討します。この作業は治療計画と呼ばれ、医師とともに放射線治療専門技師や医学物理士といった専門資格を持つスタッフも行います。大半は数日ほど、複雑なものでは1-2週間かけて治療計画が完成し、照射が始まります。

日々の照射は放射線診療技師が担当します。照射中に痛みや熱さを感じることは無く、10~20分ほどの照射を週5回平日に続けて行い数週間かけて数十回を照射します。治療開始前や治療中に看護師が治療中の生活や注意点についてお伝えします。

当センターでは前立腺がん、頭頸部がん、肺がんおよび転移性脳腫瘍などに対して積極的に高精度放射線治療を行っています。院内・外から多くの患者さんをご紹介いただき、スタッフのがんばりもあって2022年度は強度変調放射線治療(IMRT)115件、定位放射線治療105件と最多記録を更新しました。

センター一同、患者さんの病状に応じたきめ細かい放射線治療を提供できるよう日々心がけております。この文章が、ご自身や身近な方が放射線治療をうけるときに少しでもお役に立てばさいわいです。なお、当科外来は完全紹介制ですので、受診を希望される方はまず主治医の先生とご相談されてから外来をご予約ください。

泌尿器科 新任部長のご挨拶

この度、武蔵野赤十字病院泌尿器科の部長に就任いたしました、山田 幸央と申します。今後とも、よろしくお願いいたします。私は、1998年に東京大学を卒業し、同大学泌尿器科に入局し、大学附属病院や関連病院で臨床経験を積んでまいりました。2017年からは帝京大学医学部附属病院で、多くのロボット手術を経験し、昨年4月、当院泌尿器科副部長として着任いたしました。この一年間、ロボット支援下腎部分切除術を当院に導入し、前立腺全摘除術も含めたロボット手術の件数も順調に増えております。



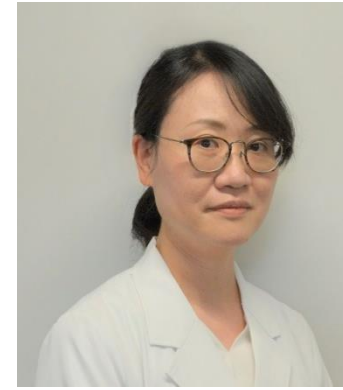
泌尿器科部長
山田幸央

ここで、私たちが行っているロボット手術について、ご説明させていただきたいと思えます。この手術は、3Dの拡大視野、アームの手振れ抑制機能、アームが多関節であり体腔内で自在に操作可能といった特徴があり、従来の手術と比べ、精度や安全性が高く、機能温存に優れ、また術後の回復も早いというメリットがあります。私自身、多くのロボット手術を経験してきたこともあり、その技術力には自信を持っております。今後も、より一層の技術の向上に努め、患者さまにより良い治療を提供できるよう取り組んでまいります。

また、私たちには、田中良典 前部長が進めてきた病診連携という財産があります。前立腺癌などの診療連携を、今後も積極的に行っていく所存です。今後もより一層、診療所やクリニックの先生方と緊密にコミュニケーションを取り、協力しながら、患者さまに適切な治療を提供するよう努めてまいります。

最後に改めまして、皆様に、武蔵野赤十字病院および泌尿器科に対するご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

皮膚科 新任部長のご挨拶



皮膚科部長
宇賀神 つかさ

2023年4月1日付にて、皮膚科部長として赴任いたしました、宇賀神(うがじん)つかさと申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は、2001年3月に東京医科歯科大学医学部を卒業し、同年4月に同大学皮膚科に入局いたしました。同大学附属病院での2年間の研修を終え、2003年4月から1年3か月の間、この武蔵野赤十字病院にて皮膚科研修をさせていただいております。

その後、取手協同病院、済生会川口病院、獨協医科大学病院、東京医科歯科大学病院での研修を経て現在に至りますが、再び武蔵野赤十字病院に勤務させていただく機会を頂戴し、ご縁を感じております。

またこの度は部長職での赴任ということで、身の引き締まる思いです。

研修医時代、患者様より「この皮膚病の原因はわからないのでしょうか？治らないのでしょうか？」などの言葉を度々頂戴し、未だ病因や治療が定まらない皮膚疾患の多さを再認識すると共に、研究の必要性を感じました。大学院進学をきっかけに、その後15年間アレルギー研究に従事してまいりました。前職地の東京医科歯科大学病院ではアレルギー疾患先端治療センターの一員として、アトピー性皮膚炎・蕁麻疹・痒疹などの皮膚アレルギー疾患、食物・薬剤アレルギーの診療に従事してまいりました。皮膚アレルギー疾患は、その多くが近年病態の解明が進み、治療も大きく進歩している領域になります。自分の専門性を活かし、武蔵野地域にお住まいの患者様に、適切なアレルギー検査・治療をお届けできればと思っております。

また、患者様が抱えていらっしゃるあらゆる皮膚のトラブルにも幅広く対応してまいりたいと存じます。皮膚症状から診断に至る全身性の病気などもございますので、何なりとご相談いただければと存じます。地域がん診療連携拠点病院でもありますから、抗がん剤・分子標的薬の使用、放射線治療による皮膚障害の治療も行っております。

患者様に寄り添った医療が提供できるように努めてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願いいたします。